

今後の講座実施計画及び目標（本年度の日付・テーマ・講師名入りのシラバスを別紙添付）

※シラバスが変更になった場合は速やかに財団までお送りください。

2016年度秋学期に開講される今回の授業では、アジア地域のうち、主に日本を含む東アジアと東南アジアを対象とする。そして、その中のさらに特定の地域（中国、台湾、香港、朝鮮、フィリピン、日本など）の個別のテーマに焦点を当てて授業を構成する。そのため、学内外からゲストスピーカーを招いて、オムニバス形式で授業を行う。

全体のテーマは、国境（境界）を越えた人の移動が経済や文化をどのような変化をもたらすかであり、経済については企業活動や労働市場への影響、農業技術の伝播、文化については、音楽、美術、映画、演劇などを取り上げる。さまざまな切り口を準備することで、自然科学を将来、研究しようとしている学生にも興味を喚起し、また文系の学生でも定の学問分野に関心を持つ学生に偏ることのない、幅広い学生の受講を促すようにする。

毎回の授業は、それぞれの回の担当教員からの説明を60～70分程度、その後、責任教員である外村とその回の担当教員、学生との間での討論を10～20分程度、学生の感想の記入の時間を5～10分程度、という時間配分で行う。担当教員の説明は次のように進める。

まず、最初に、教養課程（1，2年生）対象の授業であるということを考慮し、授業では、それぞれの地域についての基礎的な知識についての説明を行う。具体的には、その授業で取り上げる地域についての地理、歴史や社会についての概観を述べ、写真や映像資料などを通じて視覚的にも受講者の理解を深めるようにする。

そうした基礎情報の提供の上で、具体的に人の移動がいつごろから、どの程度、どのような背景のものに展開されたか（続いているか）を説明していく。同時に、国家の枠組みが、人びとの結びつきや活動において絶対的なものではないこと、普段あまり意識することのない様々な分野においても国境（境界）を越えた人の移動が影響を与えていることを具体的な事例を述べることにする。

そして、そのうえで、過去に起こった、あるいは現在も続く、国境を越えた人の移動とアジア共同体の構築との関係についての展望を述べる。具体的には、それがアジアの地域統合にどのような肯定的影響、あるいは障害を与えているのか、あるいは、その地域に生きる、過去に移動を経験した人とその子孫にとって、アジア共同体の構築がどのようなメリット、デメリットがあるのか、などである。

授業の予定、毎回の授業の担当者と講義で取り上げるテーマは以下の通りである。金曜日以外に授業が行われることがあるのは、学園祭等の関係を受けた調整によっている。

- 9月30日：鍾庭耀「香港における世論調査の発展」
- 10月7日：森田健嗣「台湾の歴史と現在における人口移動の影響」
- 10月14日：伊藤博「中国における日本企業の進出と人の移動」
- 10月21日：岡田泰平「フィリピンからの海外出稼ぎと社会的影響」
- 10月28日：道上知弘「映画に見る東アジアの交流と人の移動」
- 11月4日：神長英輔「ロシア極東地域の諸民族の交流と漁業」
- 11月11日：林慶花「アリランを通じてみる東アジアの人の移動」
- 12月2日：八尾祥平「パイン産業と人の移動 台湾・沖縄・ハワイを中心に」
- 12月9日：外村大「日本帝国の朝鮮人スターの境界を越えた活躍」
- 12月16日：姜信子「東アジアの人の移動と音楽の伝播」
- 12月23日：陳文鴻「香港と中国大陸 経済的一体化の側面から」
- 1月6日：李美那「日朝・日韓の美術家たちの移動と交流」
- 1月12日：まとめと総合討論

以上の講義を受けて、学期末にはレポートを提出してもらおう。そして、学期末レポートと、授業での討論への貢献、受講態度等を総合的に勘案して成績をつけることにする。

このような授業を通じて、アジアの諸地域についての関心を高め、受講者に高校段階ではあまり接することのない、知識を与え、様々な社会生活のなかで、アジアの内部の人びとのつながりが存在することについて理解を深めてもらう。そして、アジア共同体構築が、それぞれの地域に生きる人にとってどのような意味があるのか、その実現可能性や、実現のためにどのようなことを行うべきか等々について、考えてもらうきっかけを提供する。これらを授業の目標とする。

※記入欄が不足の場合は、別紙を添付してください。